

東町中区自治会 加入者募集中！

東町中区（ひがしまちなかく）は、JR 宝積寺駅東口から高根沢町役場入口までの県道 101 号線（宝積寺停車場線）と、その南通りの周辺の地域です。町の行政区では第 55 区になり、住所では「東町中区」は存在しません。自治会の名称です。1977（昭和 52）年 4 月 1 日に、東町が北区・中区・南区に分かれた時は、ほぼ道路で北区・中区・南区の境界がはっきりしていましたが、その後の宅地開発で支道が増えたため、境界がはっきりしていません。新しく転居された方で、お住まいの地区がご不明な場合は、お近くの方にお聞きしてください。駅に近いだけでなく、保育園・小学校・中学校などの子育て施設も徒歩圏内にあり、スーパー・コンビニ・図書館・銀行・郵便局・役場も徒歩圏内にあり、お子さんにも、高齢者の方にも、恵まれた住環境と言えます。しかし、本地区でも少子高齢化が進み、人口減少が加速しています。そこで、新しく加入する方を募集するため、本自治会の活動を紹介します。



年 2 回、踏切近くで交通安全を呼びかけています。



安心して遊べるように駅東公園を清掃しています。



駅利用者を歓迎するかのように花を植えています。



寄付をいただくと、金券やビンゴカードを差し上げます。



倉持整形の近くの神社です。初詣にお越しください。

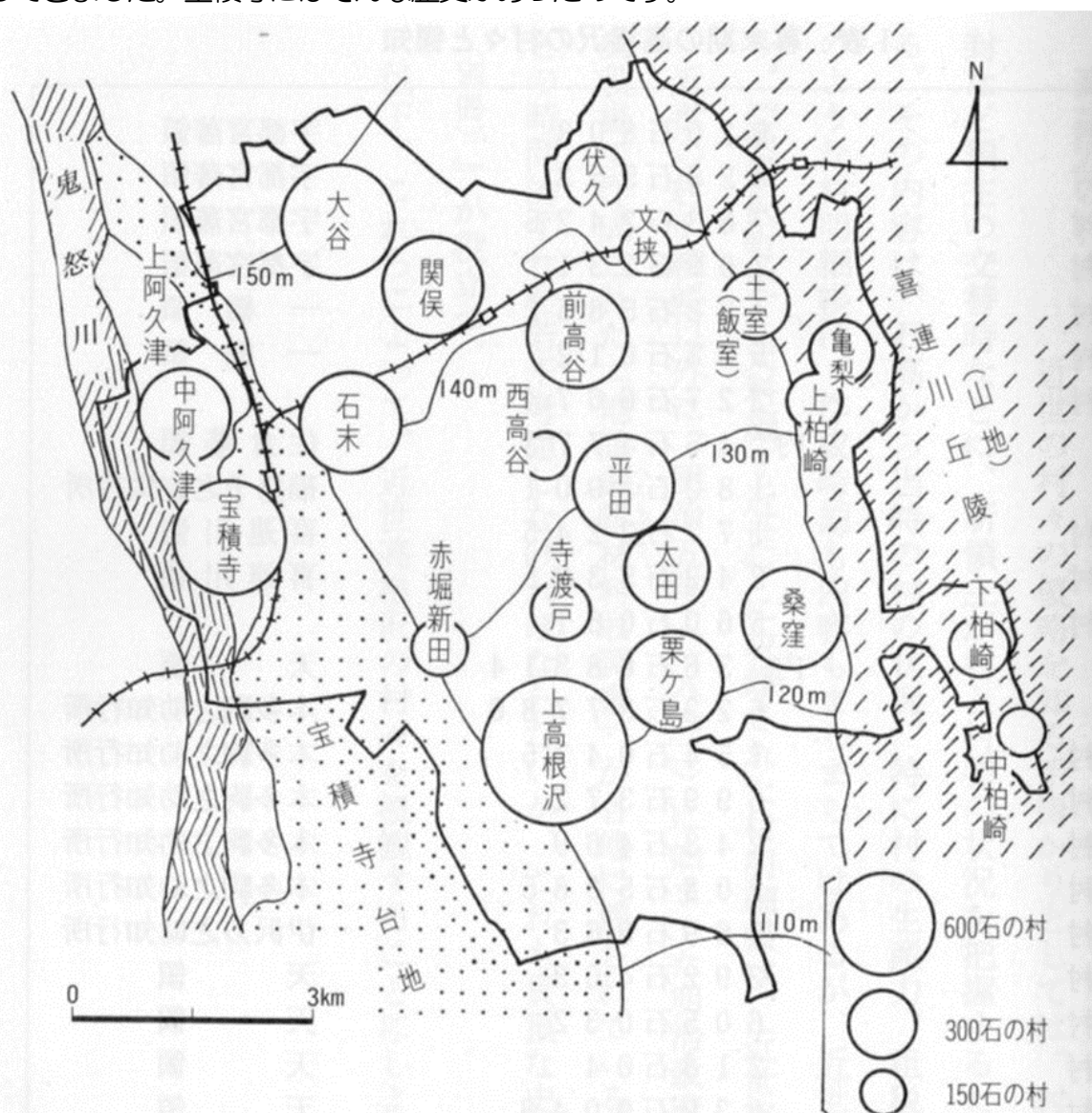


毎年 1 月 14 日、縁起物を無料でお焚き上げします。

宝積寺（ほうしゃくじ）とは？

高根沢町史 通史編Ⅰによると、「宇都宮国綱によって慶長2(1597)年、下阿久津村の字月馬場に、宝積寺という尼寺が建立された。同8年にこの寺が鎌倉に移転して廃寺となった時、その名を惜しんで下阿久津村を改称し宝積寺の号を村名としたものである。」とあるので、お寺の名前が由来のようです。

しかし、下図のように、当時の「宝積寺」とは、現在の下宝積寺を指していました。駅ができるまでは、私たちの住んでいる中区は山林でした。なぜ人が住んでいないのでしょうか。それは、井戸を掘るのが大変だったからです。電気のない時代、生活に必要な水は地下水から汲み上げていましたが、台地にある中区周辺では、水が出る深さ（約25～30m）まで井戸を掘るのは、大変なお金がかかりました。仮に、掘ったとしても、毎日の生活に必要な水を組み上げるのに、25～30m下から満杯の桶を持ち上げるのは、大変な労力が必要でした。それでも、駅ができてからは、発展してきました。宝積寺にはそんな歴史があったのです。



2図 近世高根沢の村々

注．地形区分図（土地条件図「宇都宮2万5千分の1」から）の上に、近世高根沢の村々を示した。円の大きさは村高を示す。